

未来への遺産

福岡県

宗像・沖ノ島と関連遺産群

沖ノ島は、福岡県宗像市の沖合約六十km、九州と朝鮮半島を結ぶ直線上に浮かぶ孤島です。周囲約四kmの無人島で、現在は宗像大社の神官が十日交代で島を守っています。

島は、急峻な山岳とその麓の太古のままの原生林からなり、古代祭場は原生林の中の巨岩群にあつて、波の音、風の音、鳥の鳴き声のみが静かに流れる別世界となっています。四世紀後半から九世紀末にかけて、遣唐使



「沖ノ島」：東アジア最大級の祭祀遺跡

などの対外交渉の成就や航海の安全を願って国家的祭祀が執り行われ、自然の中の祭祀から社殿における祭祀まで、日本の神祇信仰の祭祀形態の変遷を確認できる国内唯一の遺産です。

沖ノ島からは、朝鮮半島や大陸から伝来した金の指輪、馬具、唐三彩、ガラス製品など国際色豊かな奉獻品が出土し、約八万点の出土品はすべて国宝に指定され、「海の正倉院」とも呼ばれています。

大陸への航海を担った古代豪族の宗像氏が篤く崇拝した宗像三女神は、沖ノ島の沖津宮、玄界灘の大島の中津宮、宗像市田島の辺津宮の三社に祭られています。



「金製指輪」：新羅からもたらされたもので、同種の指輪が韓国でも出土しています



「新原・奴山古墳群」：津屋崎古墳群の中で最も古墳が集中する地域

平成二十一年一月、沖ノ島、宗像神社境内及び宗像氏の墳墓と考えられている津屋崎古墳群を始めとする関連遺産群が、ユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載されました。

現在、官民一体で設立した「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議を推進母体として世界遺産登録を目指してさまざまな取組みを行っているところです。

お問い合わせ

福岡県企画・地域振興部総合政策課

世界遺産登録推進室

TEL 〇九二一六四三―三二六二

FAX 〇九二一六四三―三二六三

E-mail

sekaisan@prefukuokalg.jp